

外郭環状道路については非常に長い時間をくりかえし討議された。また立場によっても様々な意見が語られてきた。

しかし残念なことは、それぞれの方が自己主張にこだわり委員の共通認識を欠いた審議が続けられたと見受けられた。

私達社会での生活は、好むと好まざるに関わらず個々の主観と別に日常生活から自然に産まれてくる現実もある。人の力では止められないことも多くある、道路（道）とはそんな問題を象徴していると私は考える、単なる交通、輸送の手段ではなくコミュニケーションとしての道の役割がある。

まちづくりとは道であると私は考えている。その道を私は安全に、大手を振って安心して歩けるまちが私達の住む社会であると確信する。

この年の3月テレビ東京の大浜ニュースキャスターはカメラを伴い、上石神井駅周辺の取材に来た。そして町の様子をテレビで語っていた。

何と雑然とした、まちなのだらう。この駅は一日43000人が利用する乗降客のある駅とは考えられないと断言した。

この道路は計画決定から、もう40年になる。今だに建設するのか、しないのか、もうこの辺で決断して頂きたい。私達はこの長い40年の期間あらゆる被害を受けてきた。街中の規則された一方通行・慣性的なクルマの渋滞・幅員の無い狭い道にバス・タクシー等クルマと人がひしめき合っ

いる。数えあげればきりが無い。

これ以上の無策政治・道路行政は許されないと思う。まちはこのままでは死んでしまう。今こそ、外環の整備に向け明確な決定を。

練馬区 湯山 茂

17年8月20日